

いつまでも健康な体でどこまでも

けんしょうかい

健翔会だより

111号

2022・10月1日

発行所

香川県坂出市川津町

(〒762-0025) 3329-14

医療法人社団 健翔会

堀口医院

TEL 0877-45-8686

◎本紙に関するご意見、ご質問がありましたら
お気軽にどうぞ！

<担当>高橋, 青北

TEL 0877-45-8686 FAX 0877-45-8883

HP <http://www.horiguchi-hp.jp>



堀口 裕 先生

できれば“がん”にならない方がいいです。

でも、もし“がん”になったら治す方向性を明確にしてください。“がん”を治すには、“がん”を治すための体力＝自己防御力を回復すること、それが唯一の方法です。

自己防御力を客観的に評価し、自分の弱点を徹底して回復しましょう。

がん治療の方向性

いかなる場合も目標は「治る」ことです。たとえ“がん”の進行度が大きくても、常に治ることを目指して努力して下さい。がんを治す上で一番大切なことは、治ることを前提に治療する“前向きな気持ち”です。最初から治る気持ちが無いなら、どんなによい治療を受けても治りません。

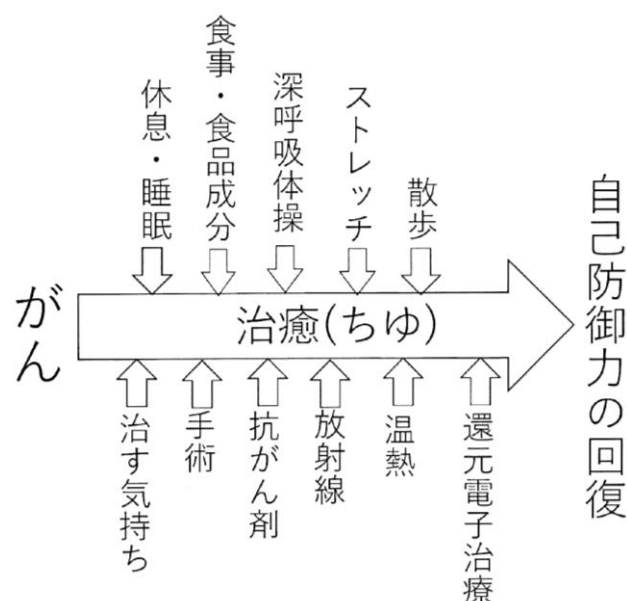
さて、がんを治療するときの指標を明確にしておくべきです。そもそも“がん”はどうして起こったのでしょうか？もし女性だから乳がんになるというなら、すべての女性になるはずですが。また男性だから前立腺がんになるというなら、すべての男性になるはずですが。でも、そのようなことが無いことは明白です。この問題は単純に考えてよいと思います。“がん”になるのは、がんを防ぐ体力が無い、たったそれだけです。したがって、がん治療の指標はがんを防ぐ体力を調べることです。実は“がん”に関わらず、大病を防ぐ力強さがあるなら、そもそも大病は起こりません。

大病を防ぐ力強さのことを“自己防御力”といいます。ゆえに、がん治療の方向性は、「治るために自己防御力を回復させること」、それのみです。手術や抗がん剤治療、放射線治療は、がんに対してとても重要な治療法です。しかしそれらは治癒(ちゆ)を目的とした治療ではありません。

たとえば、ある“がん”患者さんに抗がん剤治療をして、その後CT検査などですっかり“がん”の病巣が消えていたとします。十分に効果が出ているということで、引き続き抗がん剤治療をしていたところ、あっという間に“がん”が再び大きくなってきた、そういう例を耳にします。何らかの理由で、抗がん剤の効きが不十分なため、治癒(ちゆ)に至らなかったとも考えられます。でも本当は自己防御力の回復ができていなかったためです。また別の例ですが、“がん”がすでに、体のあちこちに転移していて、治せないと言われた患者さんがいたとします。患者さんいわく、「それでは、わずかな余生をゆっくりと楽しみたい」、ということで何も治療をしなかったのに5年以上も過ごせることがあります。偶然が重なった例かも知れませんが、しかし、もし抗がん剤が治癒(ちゆ)を意味する治療であるなら、体のあちこちに“がん”が散らばっているときこそ出番のはずですが…。

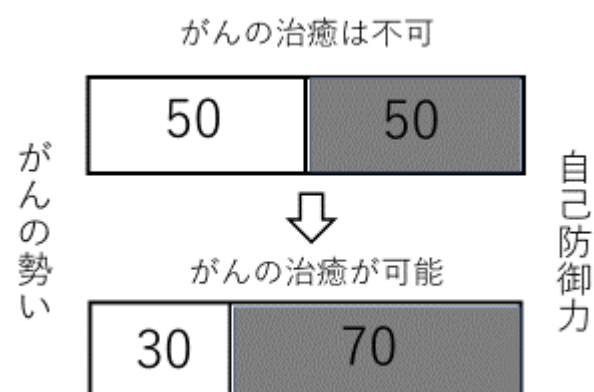
あらためて、“がん”に対するすべての治療は、自己防御力を回復させるためにあると考えるべきです。手術や抗がん剤治療、放射線治療は自己防御力の回復を早めるために行われます。

どんなに素晴らしい治療であっても、自己防御力が回復しないなら、がんの治癒(ちゆ)はありえないのです。がんを治せるのは、生きている患者さんの体力次第です。



がんの治療評価は自己防御力である

自己防御力を回復しなければ、“がん”を治すことはできません。それでは、“がん”と自己防御力との互いの関係はどうなっているのでしょうか。実は、“がん”の勢い(活動度)が弱いなら、自己防御力は回復し易いです。ですから、“がん”は治り易いです。反対に“がん”の勢い(活動度)が強いと自己防御力は、なかなか回復しません。よって“がん”は治り難いです。そこで何らかの方法で“がん”の勢いを弱めることができれば、すなわち自己防御力を回復させることができます。便宜的に図で解説しますと、がんの勢いと自己防御力が半々なら、がんを治すことはできません。確実に“がん”を治癒へ導けるのは、がんの勢い「30」に対して、自己防御力「70」です。もし抗がん剤を用いると、がんの勢いが減速します。しかし、しばしば自己防御力の方も低下します。その結果、自己防御力が「70」を大きく下回って持続するなら、がんを治癒させることは困難です。抗がん剤治療の目的は、がんの勢いを止めて自己防御力を回復させるための治療です。CT検査の画像で、“がん”の病巣が消えていても、自己防御力が著しく低下しているなら、がんの勢いは強いままとみるべきです。



第十回「けんしょうかい川柳」入選作品

大賞

作者 テベス・メンドーサ様 香川県在住

『喜寿むかえ』

新婚以来の

夫婦風呂』

作者解説

お互い、後期高齢者になり、一人風呂は心配です。情けない！

院長コメント

いえいえ、情けないどころか、互いに気遣う心に、とても感動しました。いつまでもお幸せに。

院長賞

作者 宮本明美様 香川県在住

『ばあさんが』

孫の手を引く

参観日』

作者解説

ばあさんが朝からウキウキ元気なのはエナジীরおかげです。

院長コメント

還元電子治療は、病気を治すためというよりも病気を防いで、生涯健康で過ごすことを目的につくりました。健康であれば人生は楽しくなります。

エナジীর賞

作者 玄さん様 兵庫県在住

『エナジীরと』

現代医療

手をつなぐ』

作者解説

根治療法と対象療法をうまく活用して健康作りに励みたいものです。

院長コメント

現代の医療なしに病気を治すことは難しいです。しかし現代医療だけで病気を治すこともできません。是非、還元電子治療を併用して下さい。

ズバリ賞

作者 T・Y様 長野県在住

『エナジীরは』

めんえきアップに

さいこうだ』(ね)

作者解説

昨年七十歳。今年まさかの癌が発覚。手術を受け堀口先生にご指導受ける際、エナジীরの当て方(免疫アップ)を教えて頂き、毎日七回を目指し二十五分かけ一時間おいてかけています。

院長コメント

還元電子治療をつくった目的は、免疫力の回復です。一回二十〜三十分の治療で、インターバル六十分あけ、一日五〜七回を目標にして下さい。

SNS賞

作者 藤井憲子様 埼玉県在住

『先生の』

ユーチューブ見て

実践す』

作者解説

コロナ禍で先生の講演会に行けず、先生のユーチューブを拝見しなるほどと思いエナジীর、サプリ、呼吸法、散歩を実践し今、私は疲れ知らずです。

院長コメント

楽しい人生を過ごすためには、最期まで自力で動けることです。それには、平生の努力が大事です。これからもSNSでお話します。

ウキウキ賞

作者 戸所光子様 群馬県在住

『エナジীরに』

頼れし老後

うれいなし』

作者解説

年老いて、あちこちが痛むとしても、エナジীরに身を寄せ合える現実は無二の喜びを味わっています。

院長コメント

年をとるほど身体は衰え、病気になるやすいです。還元電子治療をして、最期まで自力で過ごせるようにしましょう。元氣でいることが一番幸せなことです。

次回のご応募締め切り日は十一月十五日です。

健翔会だより一・二二号は十二月一日発行分に掲載致します。

沢山のご応募お待ちしております。

けんしょうかい川柳 選考委員会